

JASE

# 現代性教育 研究ジャーナル

MONTHLY JOURNAL of SEX EDUCATION TODAY

2019年  
No. 96  
2019年3月15日(毎月15日)発行

日本性教育協会  
THE JAPANESE  
ASSOCIATION  
FOR SEX EDUCATION

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info\_jase@faje.or.jp URL https://www.jase.faje.or.jp 発行人 石川哲也 編集人 中山博邦  
© JASE. 2019 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

デートDV防止全国ネットワークの活動…………… 1	多様な性のゆくえ <sup>23</sup> …………… 10
思いこみのめがね <sup>12</sup> …………… 7	今月のブックガイド…………… 11
性教育の現場を訪ねて <sup>24</sup> …………… 8	JASEインフォメーション…………… 12

## デート DV 防止全国ネットワークの活動

NPO 法人デート DV 防止全国ネットワーク事務局長 阿部真紀

### はじめに

デート DV のない社会の実現を目指して、NPO 法人デート DV 防止全国ネットワークが設立された。本稿では、NPO 法人として設立するまでの経緯、ここまでの活動、そしてこれから何を目指していくのかをお伝えしたい。

「デート DV」という言葉が生まれてちょうど 15 年の 2018 年 11 月、デート DV 防止全国ネットワークを NPO 法人として設立登記することができた。本紙をお読みいただいている方は、「デート DV」という言葉をご存知の方が多いと思うが、日本の人口から考えたら、いったい何割の人がこの言葉を認知しているだろうか。さらに、交際相手から暴力を受けながらも、なかなか別れることが難しいというデート DV の構造や特徴まで理解している人は、数パーセントにも満たないのではないだろうか。

「デート DV」とは婚姻関係のない恋人間で起きる

暴力のことだ。10 代のカップルの 3 組に 1 組で起きていると言われるほど、子どもたちにとって大変身近な問題である。同時に、エスカレートした最悪の結果として、若い女性が交際相手や元交際相手から殺されるという悲しい事件も後を絶たない。にもかかわらず認知が進んでいないのが現状である。

「デート DV」という言葉を誰もが知り、その構造まで理解することで、その被害を防いでいく必要があるのはもちろんだが、私は「デート DV」防止活動を進めることにはもっと大きな可能性が潜んでいると考えている。デート DV は、本年 1 月に千葉県野田市で起きた児童虐待死事件などや DV(ドメスティック・バイオレンス) と密接に関連している。交際中のデート DV に気づかず(あるいは、むしろ気づきながらも結婚すれば変わるのではないかという幻想から)、そのまま結婚すれば(大半の場合幻想であるため)夫婦間の DV となる。そしてそこに生まれてきた子どもにとっては、児童虐待を意味する。

デート DV を予防することは、DV や児童虐待をな

## NPO法人デートDV防止全国ネットワーク

## 〈目的〉

全国でデートDV防止や支援に関わる活動をしている機関、団体、個人に対して、予防教育の普及を促進するための調査研究や政策提言、当事者支援のための連携、啓発活動等に関する事業を行い、デートDVのない社会の実現に寄与する。

## 〈主な活動〉



くしていくことに繋がると考え、私が所属する「エンパワメントかながわ」では2004年から独自にデートDV予防プログラムを開発し提供してきた。

これまでの15年間、学校現場でデートDV予防プログラムを提供する中で、DVや虐待、さらに貧困が世代を超えて連鎖するケースをたくさん見聞きしてきた。家庭に居場所がない女子高校生が交際相手から暴力を振るわれながらも、「この人しか自分のことをわかってくれないから」と別れることができず、避妊の協力も得られず妊娠した子は、こう語る。「大丈夫、私の母も17歳の時、私を産んだから」。中卒でひとり親家庭となれば、経済的に困窮していくことは免れず、困難を極めることになる。

加害をする側もまた、親から虐待を受け、暴力だけを学んできた生徒であった。彼も暴力行為を問われ、自主退学を迫られ、学校から追われ、虐待被害についてのケアがなされないまま社会に放り出された。こうした暴力と貧困の連鎖を断ち切るキーワードになりうるのが「デートDV」だと考えている。

## 設立宣言に至るまで

(2016年7月～2017年3月)

「デートDV」という言葉で、予防教育ができる。

つまり、10代にとって身近なテーマとして、どんなに親密な関係であっても、対等でお互いの違いを認め合う大切さを伝えることができる。「デートDV」という言葉で、支援現場で複雑に絡みあうDVや虐待、予期せぬ妊娠、望まない妊娠などに向き合う様々な専門分野が互いに繋がることできる。そんな仮説をもって、私たちがデートDV防止全国ネットワークの設立に本格的に取り組み始めたのは、2016年の7月である。

デートDV防止に関わる全国組織をつくるという目的に対して、「認定NPO法人エンパワメントかながわ」に助成金が決定した。2013年から毎年3月に開催してきたデートDV防止スプリング・フォーラムに協力していただいた3つの団体（公益社団法人ガールスカウト日本連盟、NPO法人DV防止ながさき、岩手県BBS連盟）と共に、設立委員会を構成した。

設立委員会では、2016年度中に2つの事業を行うことを決めた。まず、当事者世代を対象とした全国規模での実態調査を行うこと、そして、デートDV防止活動を行う団体や機関に呼びかけ全国マップを作ることである。

## 〈全国デートDV実態調査〉

内閣府では、定期的に「男女間における暴力に関する調査」を実施し、交際相手からの暴力被害経験を発表しているが、この調査の対象者は20歳以上であり、回答者の6割以上が50歳以上である（「平成29年度男女間における暴力に関する調査」）。

デートDV当事者世代を対象とした調査を実施するため、「デートDV予防教育」を受講した中学生・高校生・大学生に対して、デートDVを「行動の制限」、「精神的暴力」、「経済的暴力」、「身体的暴力」、「性的暴力」の5パターンに分類して、それぞれ6項目、全部で30項目の被害経験・加害経験を尋ねるアンケートを設計した。

2016年10月から12月に、「DV防止ながさき」、「エンパワメントかながわ」など5団体が、予防教育を受講した中学生・高校生・大学生を対象に1都10県で2868人にアンケート調査を実施した。有効回答2122人のうち、交際経験があると答えた1329人の中で、一つでも被害があったと答えた人は38.9%、一つでも加害をしたと答えた人は20.8%であった。このことは、

これまで10代のカップルの3組に1組の割合でデートDVが起きていると言われてきたことを裏付ける結果となった(表1)。

表1 デートDVの経験の割合

中学生・高校生・大学生 交際経験のある人		一つでも 被害経験	一つでも 加害経験
全体	N=1329	38.9%	20.8%
女性	N=894	44.5%	21.0%
男性	N=435	27.4%	20.5%

この調査では、予防教育を実施した後の数字であることが重要である。予防教育をしたからこそ、約4割の人が被害に気づき、約2割の人が加害に気づいたということになり、予防教育の重要性を示しているとも言えるだろう。

女性の被害経験としてもっとも多かったのは、「返信が遅いと怒る」24.2%、続いて「他の異性と話をしないと約束する」15.4%、「バカ、死ねなど傷つく言葉を使う」14.3%、「友人関係を制限する」14.0%、「体型や容姿について嫌なことを言う」12.9%、「理由も言わずに無視をする」12.1%、「別れたら死ぬと言う」11.4%だった(図1)。

図1 女性の被害経験の内容と割合



男性の被害経験として多かったのは、「返信が遅いと怒る」13.3%、「他の異性と話をしないと約束する」11.5%、「理由も言わずに無視をする」9.4%、「友人関係を制限する」9.0%、「バカ、死ねなど傷つく言葉を使う」7.8%、「別れたら死ぬと言う」5.5%、「高いプレゼントを買ってほしいと言う」5.5%だった(図2)。

図2 男性の被害経験の内容と割合



さらに、重篤と考えられる女性の被害経験として、「裸や性行為の写真や動画を撮りたい、あるいは送ってほしいと要求する」9.6%、「避妊に協力しない」6.2%、「嫌がっているのにセックスをする」6.0%、「裸や性行為の写真や動画を撮る」4.7%、「首を絞める」2.8%などがあつた(図3)。

図3 重篤と考えられる女性の被害経験の内容と割合



また、デートDVの5パターン(「行動の制限」、「精神的暴力」、「経済的暴力」、「身体的暴力」、「性的暴力」)それぞれの被害経験の相関を分析した。

ここでは、細かな数値の解説は省くが相関係数を算出したところ、全ての変数間において有意な相関がみられた。つまり、デートDVの中で起こりうる暴力は、決して単独で起こっているのではなく、その他の暴力と密接に関わりあっていることがわかった。

特に、性的暴力の被害経験について、その実数と割合は他の暴力に比べて少ないが、分析では、性的暴力とその他の暴力について、強い相関がみられた。この分析からは、デートDVにおいて、性的暴力以外の暴力の被害を受けている場合、性的暴力も同時に受けている可能性が高く、相談支援の場では、被害者が性的被害を語らない場合でも、その可能性を考慮して対応する必要があることが示唆された。

本調査の結果は、『デートDV白書VOL.5』としてまとめ、デートDV情報発信サイト(愛称「ナタロン」<http://notalone-ddv.org/>)に掲載しており、PDFファイルでのダウンロードが可能なので参照していただきたい。

### 〈デートDV防止全国マップ〉

デートDVの防止活動をする団体や機関がどれくらいあるのかを調査し、周知するために、「予防教育の講師の派遣」、「啓発グッズ等の制作」、「相談窓口」のいずれかを行う団体や機関を都道府県ごとに掲載した全国マップの作成を呼びかけたところ、2、3か月の短期間で80の団体や機関を掲載することができた。



デートDV情報発信サイト・愛称「ナタロン」より  
(<http://notalone-ddv.org/>)



2017年3月19日「デートDV防止スプリング・フォーラム」  
(横浜市・男女共同参画センター)

現在、120に増えているが、実質的には200以上の団体や機関があるのではないかと考えている。

2017年3月19日、横浜で開催された5回目となる「デートDV防止スプリング・フォーラム」にて、この全国マップを発表し、「デートDV防止全国ネットワーク」の設立を宣言した。

## 組織づくりの開始

(2017年4月～2018年3月まで)

設立を宣言したものの、どのような組織体でどのような事業を進めていくのかまでは、この時点では決まらなかった。そこで、あらためて運営委員を募り、今後の運営を検討していくこととなった。2017年度は、全国各地で先駆的にデートDV予防教育を実践してきた実践者、学識経験者に加え「にんしんSOS」、「ホワイトリボンキャンペーン」の関係者などの専門家17名に運営委員になっていただき、今後の方向性について話し合いを重ねた。

## 〈デートDV予防教育実施状況調査〉

2016年度の実態調査に続き、2017年度は、「デー

トDV予防教育」がどのように実施されているかの実態調査を行った。全国マップに掲載された団体や機関を対象に都道府県ごとに調査を実施した。2017年11月から2018年1月の3か月間に回答があったのは、25団体であった。

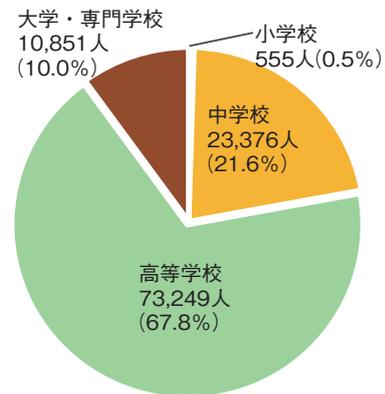
全国の状況を網羅したものとはいえないが、調査結果の一部を以下に紹介する。

### ・学校種別ごとの受講者数及び実施回数

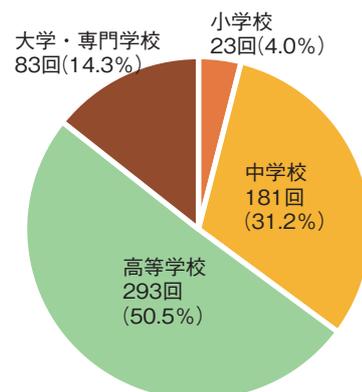
2016年4月から2017年3月までに、回答のあった25団体が実施した「デートDV予防教育」を受講した児童・生徒・学生は108,031人、実施回数は580回であった。学校種別では、高校が一番多く293回(73,249人)、次いで中学校181回(23,376人)、大学・専門学校83回(10,851人)、小学校23回(555人)という結果であった。

学校種別ごとには、実施回数でも受講者数でも高校が最も多いという結果となった。現状では少数であるが小学校でも実施実績があり、ニーズが増えているという関係者からの声もある。発達段階に応じて、小学校、中学校、高校、大学と何度も受講できるのが理想的であるが、デートDVの予防教育をどの年齢(学

学校種別の受講者数と割合



学校種別の実施回数と割合



年)で実施するのが一番効果的であるかを、内容も含めて検討する必要がある。できれば義務教育期間、つまり中学校卒業までに受講できる体制を目指したいと考えている。

本調査では、実施対象だけではなく、実施単位(クラス単位・学年単位・学校単位の受講者数の違いや実施時間(45分、60分、90分など)、実施方法(講義形式、参加型ワークショップ形式など)、さらには、費用負担のあり方など(行政委託、民間助成金、受講関係者)についても回答を得た。

どのような方法や形式が費用などの面も含めて効果が得られるのかを丁寧に検証していきたい。

なお、本調査の結果は、『デートDV白書VOL.6』としてまとめ、VOL.5と同様にデートDV情報発信サイト(愛称「ナタロン」<http://notalone-ddv.org/>)に掲載してあるので、参照していただきたい。

## NPO 法人となる

(2018年4月～2019年3月まで)

2018年6月3日第6回目となる運営委員会にて、NPO法人格を取得すること、また親密な関係にある若者の間の暴力を「デートDV」と定義し、『デートDV防止プログラム実施者向けワークブック―相手を尊重する関係をつくるために』などの著者である山口のり子が、代表理事に就任することが決まった。

折しも文部科学省から「公立高校における妊娠を理由とした退学等に係る調査結果」が発表されたことを受け、10代の妊娠とデートDVとの関連を明らかにする取り組みが始まり、「10代の妊娠とデートDV」と題した設立記念シンポジウムを8月26日に開催した。

### 〈設立記念シンポジウム〉

基調講演では、産婦人科医である種部恭子氏から「医療現場で見る10代の妊娠と課題」をテーマにお話いただいた。今を生きる10代の性行動の傾向から、10代の妊娠の背景に潜む家庭内の暴力の存在、家庭にも学校にも居場所がない子どもたちがリスクの高い性行動を選ぶ現状が報告された。

10代の妊娠や出産と関わる中で、明らかに予期せぬ妊娠・貧困・暴力の世代間連鎖があること、その連

鎖を止めるために、できるだけ早い時期での支援こそが重要であり、支援者たちが手を携え協力していくことこそ必要であることが述べられた。

さらに、一般社団法人にんしんSOS東京の松下清美氏からは、「メール相談から見える10代の妊娠の背景」と題し報告があった。相談員がデートDVか否かの基準として、①避妊なしの性行為、②同意のない性交、③対等でない関係、の3点から判断したところ、高校生の妊娠葛藤相談191件のうち37件(19.3%)、つまり2割のケースにデートDVが認められたとのことだった。

にんしんSOS東京の相談記録については、その後「数理解析手法を用いた相談メールの語彙や文章の意味比較」を行った結果、デートDVのキーワードと一般的な妊娠葛藤相談のキーワードとは、異なる傾向にあることが確認できたという報告もなされた。

### 〈地域フォーラム〉

デートDV防止全国ネットワークが設立されたことを周知し、さらに地域ごとでデートDV防止活動を行う仲間同士の情報共有と連携を図ることを目的とし、2018年度は6か所での地域フォーラムを開催し、総勢291名が参加した。

- ①北海道・東北地区：11月24日 エル・ソーラ仙台  
協力：BLTグループ
- ②関東地区：12月10日 ウィズ・ユーさいたま  
協力：レジリエンス
- ③中部地区：12月1日 名古屋YWCA  
協力：アウェアfネット
- ④近畿地区：12月15日 大阪ドーンセンター  
協力：ホワイトトリボンキャンペーン・ジャパン、ウィメンズネット・こうべ、SEAN、NOVO
- ⑤中国・四国地区：12月2日 岡山ウィズセンター  
協力：さんかくナビ・ペンギンプロジェクト
- ⑥九州地区：2019年2月3日 長崎アマランス  
協力：DV防止ながさき

地域フォーラムを実施し、各地域内であっても「お互いの活動を知らなかった」、「具体的な実践例をもっと知りたい」、「連携したい」と情報共有の必要性が浮かび上がった。隣の県の実施状況を知り、自分の自治体でももっと推進したいという声も聞かれ、ネットワークの意義を確認できた。

## 今後の活動

デートDV防止全国ネットワークが目指すことは、すべての子どもたちがデートDV予防教育を受けられる状況を創り出すことである。私はデートDV予防教育を普及していくために、3種類の調査が必要だと考えている。

- デートDVの被害や加害の実態を明らかにすること。
- デートDV予防教育が各地でどのように行われているかを明らかにすること。
- デートDV予防教育の効果を明らかにすること。

2016年度に実施した「全国デートDV実態調査」は1都10県での調査であり、全国の実態を網羅したものとはいえない。2017年度に実施した「デートDV予防教育実施状況調査」も同様に全国の状況を明らかにしたものではない。

いずれも初めの一步として大きな意義があるものと考え、今後も実態調査および実施状況調査を継続していきたいと考えている。予防教育の効果測定は一番重要であると考え、学識経験者のご協力をいただき



デートDV情報発信サイト・愛称「ナタロン」のトップページ  
(<http://notalone-ddv.org/>)

丁寧に準備し実施することを計画している。

予防教育を実施するのは各地域の団体や機関、個人であるので、持続可能でかつ効果的な実践ができるよう全国ネットワークとしてバックアップの体制をつくっていき、今後も様々な地域ごとでの地域フォーラムを開催することも予定している。さらに、被害者や加害者など当事者を支援するために、専門分野を越えた連携体制を構築していきたいと考えている。

## JASE 性教育・セクソロジーに関する資料室

### 資料室について

JASE 資料室は国内外の性教育、性科学等に関する文献資料を収集している開架式資料室です。文献資料の数は約6万点以上、現在も日々、増え続けています。性教育、セクソロジーに関する調査、研究のためにご利用いただけます。人間の性に関心がある方、ぜひ足をお運びください。

【閲覧】必ず事前に電話で予約が必要です (tel 03-6801-9307)。貸出業務は行っていません。

【開室日・時間】月～金曜日 10:30～17:30

【休室日】土・日曜日、祝日、年末年始 ※その他、会議等で臨時に休室することがあります。

【コピーサービス】コピー料金は用紙サイズにかかわらず1枚10円です。著作権法の許容範囲で行うものとします。

<https://www.jase.faje.or.jp/pub/archive.html>

### 資料室 利用方法

### 収集文献 ・資料

統計・調査報告書、ジェンダー・フェミニズム、性教育一般・性教育の歴史的資料、国内雑誌、障害者、セクソロジー（自然科学系、人文・社会学系）、民俗学・文化人類学・風俗、性研究史・性学史、教科書・指導書・学習指導要領、幼児期～青年期、国内学術誌、国際（海外団体資料・海外学術誌）、高齢者・家族問題、文学・評論・エッセイ・文庫・新書、官公庁資料、JASE 刊行物、映像資料、個人論文、雑誌記事、新聞記事、絵本・写真集・マンガ、江幡・篠崎・朝山・石川・ダイヤモンド文庫、ほか。

<https://www.jase.faje.or.jp/cgi-bin/search1.cgi>

# 思いこみ の ゆがね

シゲせんせーのポジティブライフ

「春は名をみの風の冷たさよ」とはよく言ったものです。今年は立春が過ぎて、とても寒い日が続いていたように感じます。暖くなるのを心待ちにしていたのですが、ここ最近ようやく春の陽気を感じられるようになってきました。先日は早咲きの桜である河津桜を愛で、神奈川県三浦市へ出かけてきました。濃いピンクの河津桜が、咲き誇っていました。そう言えば、現代性教育研究ジャーナルでの執筆を始めたのも去年の今頃でした。

瞬きしている間に、1年が経ったような気がします。

この1年間も小学校に勤務して、算数の学力向上や特別支援教育を中心に仕事をしてきました。生と性の多様性について勤務校で子どもに直接的な指導をすることはありませんでした。しかしながら、(詳細を語ることはできませんが)やはり学校の中で生と性の多様性について「予防的」「積極的」「教育的」に行く必要があることを強く感じました。学校で生活する子どもたちの「生」は、「性」を切り口としても少なくとも既に多様であることを再確認しました。

勤務先ではない小学校や中学校に伺う機会が多くありました。生と性の多様性について授業をすると、事後のアンケートで「自分もセクシュアルマイノリティです」と打ち明けてくれる子がいました。「友達にもいつかカミングアウトしたいです」という子もいました。私は1回切りの授業しかできません。ですがLGBTの子もそうでない子も、自他の生と性を大事にすることについて話し合える場が保証されるといいなと考えています。

学校の先生と学ぶ機会にも恵まれました。「性の多様性について授業をしたいが、何をどう始めればよいか迷っている」という声をよく聞きました。なぜ多様性の授業をしたいのか、その授業を通して子どもに何を伝えたいのか語り合いました。先生方の気概に触れるたびに、同業者としてよい刺激を受けたと同時に、ゲイである自分も何か救われたような気にもなりました。

鈴木茂義 Suzuki Shigeyoshi



公立小学校非常勤講師。14年間の公立小学校正規教諭、主任教諭を経験。専門は特別支援教育、教育相談、教育カウンセリングなど。

「シゲせんせー、実は私も…」と、自らもセクシュアルマイノリティであることをカミングアウトしてくれた教員志望の大学生、現役の先生もいました。一人ひとりの中にストーリーがあり、苦悩や戸惑いがあり、喜びや幸せがあることを知りました。「シゲせんせーのカミングアウトに励まされました」という声もあれば、「辛い。カミングアウトがしたいけどできない」という声もありました。この執筆のバトンを受け取り、先生たちの思いのバトンを受け取り、私は次に何をしようかと考えてきました。

思いを共にする仲間が増え、思いや実践が広がり、それぞれの持ち場でそれぞれの取り組みが進んでいることを感じます。担任をもちながら子どもの前で、自らのセクシュアリティについてカミングアウトをした先生がいました。私はそれができなかったので、とて

も羨ましい気持ちになりました。子どもの前でカミングアウトはしない。けれども性の多様性について実践を進めるという先生がいました。担任をもちながら実践を積み重ねることに、や

はり羨ましさも感じました。数年前には出会えなかった先生たちやその実践に触れることで、自分の世界や人生が広がったような気がします。そんなことを言うと私の全てが上手くいっているように聞こえますが、決してそんなことはありません。世界や人生が広がれば、新たな悩みや壁にもぶつかります。うまくできない自分に嫌気がさすときもありますし、他者と比較して劣っていると勘違いする自分に落ち込むこともあります。私はこれからも、そんなややこしい自分と生きていくのだと思います。

子どもの思いや声のバトンを、これからもつないでいきます。仲間の先生やたくさんの大人の実践や取り組みを、これからもつないでいきます。そして両親からつながった命のバトン。そのバトンは、性に揺れていた小学生の私から、中学生高校生の私に、そして大人になった私に引き継がれました。40歳になった今、そんな命のバトンを改めて振り返ることで、これからの自分をはっきりしてくるのかもしれない今は思っています。

## 第12回

### 「シゲせんせーのこれから」 バトンをつなげ

[岡山県倉敷市立船穂中学校] (下)

## 性の多様性を認め合う授業

### 第2学年の学びを他学年に伝える

岡山県倉敷市教育委員会と市内の小・中学校の先生方が人権教育課題として共に取り組んだ「性の多様性を認め合う児童生徒の育成」。各校は、児童生徒が正しい知識を身につけ楽しく学べるように、工夫を凝らして研究課題の授業に取り組んだ。今回は初年度に研究課題に取り組んだ倉敷市立船穂中学校の学びを紹介する。

#### 学校現場に存在する「性による区別」

平成28年4月、岡山県倉敷市の小中学校10校で人権教育課題研究「性の多様性を認め合う児童生徒の育成」の取り組みが始まった。

倉敷市立船穂中学校では、全校生徒が性の多様性について正しく理解できるように、第2学年の生徒が先行して学び、自分たちが得た知識をまとめあげ、他学年のクラスに出向いて発表する形をとることにした。

「あとから振り返ってみると、スタート当時の4月は、私も含め教師たちは性的マイノリティに対する知識もなく、偏見もあったかと思います」。平成28年度の人権教育課題研究委員の1人であった田中和子教諭は、当時を振り返ってそう語る。

「『もしかしたら学校がいちばん偏見を助長しているかもしれない』——そう当時の校長が言っていました。まさにその通りかもしれません。学校の現場では男女で制服が違うし、上履きの色も異なる。男女別の名簿やテスト用紙に性別を書く欄が設けてあるものもある。給食ひとつとっても、職員室で『これは大盛りだから男性』と言ったり……。さまざまなシーンで性による区別が色濃く残っていたのです」。

性の多様性について学んでいくうちに、田中教諭はこれまで当たり前のこととして捉えていた一つひとつのことが気になりはじめたという。

本格的な授業がスタートするまでの2か月間、教師たちは事前学習や校内研修等で、自身がまず正しい知識を身につけて、念入りに授業の準備を重ねていった。

6月、いよいよ全8時間を通して行う「性の多様性

倉敷市立船穂中学校

校長 大月 新一

生徒数 170名

教職員数 26名（不登校生徒支援員、NET等含む）

（2019年2月現在）

を認め合う」授業がスタートした。授業と並行して教師たちもまた、夏季休業中も研修を行ったり、中学校区の取り組みとして、幼稚園・小学校との合同で性的少数者自助グループに講師を頼み研修を受けるなど自身の学びを深めていったという。

#### 第2学年の試行錯誤

道徳で3時間、総合的な学習の時間で1時間、第2学年の生徒たちは前半4時間の授業で多様性を尊重し認め合うことを学んだ。次は、自分たちがインプットした知識を他学年にアウトプットしていく作業に入る。他の人たちにぜひ知ってもらいたい知識や事実を挙げさせて、テーマを決め、班別の学習がスタートした。

「基礎知識をクイズ形式にしてみてもはどうだろう」「レインボーバッジをつくって、レインボーカラーの意味を説明してみないか?」「当事者の人にインタビューできるかな?」——自分たちに何ができるか。自分たちの考えや思いを伝えるにはどうしたらよいか。第2学年、2クラスの生徒たちの試行錯誤が始まった。

「生徒たちは、互いにアイデアを出し合い、工夫をこらして1つのものをつくっていきました。最終的には各班発表のリハーサルシーンをクラスの担任にビデオ撮影してもらい、生徒たちはそれを見ながら、発表の修正をするなど、だんだんと大がかりなものにな

## 第2学年から他学年および保護者へアウトプットした内容

	テーマ	発表内容
A班	【導入】 私たちの中の固定観念	・身の回りの事象を中心に、自分たちの中の固定観念に気づかせる。
B班	【Q&A】 クイズで学ぼう性の多様性	・クイズを取り入れ、「多様な性の捉え方」「性のグラデーション」等、解説をはさみながら多様な性についてわかりやすく説明する。
C班	【基礎知識】 多様な性を知ろう	
D班	【聞いて見よう】 当事者の思い	・当事者の思いを直接インタビューし、映像とともに伝える。
E班	【考えよう】 私たちにできること	・学習の総括として、自分たちにできることを提案。 【例】「社会が変わりつつある現在、変わらなければならないのは私たち」
F班	【啓発・広報】 誰もが自分らしく生きるために	・レインボーカラーの意味の説明。 ・ポスター、標語、手作りバッジを使って啓発。

っていきました。手間も時間もかかりましたが、生徒たちは楽しみながら行っていました」(田中教諭)。

### 学年から学校全体の学びとなった

第2学年の生徒が学んだ知識をいよいよ他学年に発表するときがきた。船穂中学校は、各学年2クラスで構成されている。そこで、1時間目は、2年A組が3年A組に、2年B組は3年B組へ、2時間目は、2年A組は1年A組へ、2年B組は1年B組に出向いて発表を行った。また、学習のしめくくりとして、参観日には総合的な学習の時間に保護者に向けて発表した。

「たとえば、『私たちの固定観念』というテーマでは、男子が女子の制服を着て、制服の下の部分だけの画面を提示した。その画面をみせながら『さあ、皆さん。今ここ映っている人は、男子でしょうか？ 女子でしょうか？』と他学年に問いかけました。生徒たちが見せる大人にはない柔軟な発想に、教職員一同感心させられることが多々ありました」と田中教諭はいう。

「聞いてみよう 当事者の思い」というテーマでは、当事者に直接インタビューをして聞いたことを映像と共に伝えた。「当事者の思いを直接聞くことで、当事者が困難(生きづらさ)を感じる社会はおかしいのではないか。変わらなければならないのは自分たちだということに気づくことができたようです」。

第2学年の生徒は、自分たちの学びをいかに他学年に伝えていくかを模索することで深い学びへとつながっていった。一方、発表を聞いた側の1年生や3年生からも、2年生の熱意ある発表に自分たちも真摯に受け止めたという感想が多くあったという。

田中教諭は「一連の学習を通じて、教職員の共通理解を図れたことも大きな意義がありました。結果として、生徒も教師も含めた学校全体の学びにつながった

と思います」と確かな手ごたえを感じたようだ。

#### 【生徒たちの感想】

- ・性的少数者の方を他人事のように思ってしまったたり、変な人という誤解が生じてしまったりするの、やはりおかしいことだと改めて考えさせられた。
- ・2年生のみなさんは性の多様性についてしっかり伝えてくれたので、よかったです。

#### 【保護者の感想】

- ・子どもたちが自分たちで調べ、考えることができ、とてもよい機会になったと思う。
- ・「セクシャリティ」を考えるきっかけになったと思う。家庭で話し合うことも大事だと思った。

### ダイバーシティ教育を推進

岡山県倉敷市教育委員会と市内の小・中学校の先生方が人権教育課題として共に取り組んだ、性の多様性を尊重する授業は、好事例として新聞や教育雑誌などでさまざまな形で取り上げられるようになった。

倉敷市教育委員会人権教育推進室・松尾真治主幹は「倉敷市は、性の多様性の学びに関して進んでいるといわれるのは誇らしいこと」としながらもテーマはそれだけに限らないという。「日本在住の外国人、障がい者や高齢者、女性など、人権課題を踏まえた根本的な考え方はすべて一緒だと思うのです。私たちはダイバーシティ教育というもっと大きな枠組みの中で、教育を推進していきたいと考えています」と語る。

さらに「多様性を認め合う価値観を身につけた児童生徒たちは、今後の人生の中でさまざまな出会いがあるだろう。その出会いの中で、多様性を尊重する実践を行っていってくれるはず」と同主幹は期待を込めて語った。

(取材・文 エム・シー・プレス中出三重)

## 世銀総裁も辞任した

2022年までの任期を3年以上も残し、世界銀行のジム・ヨン・キム総裁が2月に辞任した。世銀の発表があったのは、日本風に言えば、まだ松の内も明けていない正月7日だったこともあり、新年早々のサプライズ報道に驚いた人も少なくなっただろう。

いったい何があったのか。ロイター通信は当日のニュースで『世銀幹部2人によると、キム総裁の退任は自発的なものであり、トランプ政権によって「排除されたわけではない」とした』と報じている。

気候変動対策や中国への対応をめぐり、米国のトランプ政権と世銀との確執は以前から指摘されていた。また、当コラムでも紹介したように、母子保健やエイズ対策の現場ではトランプ政権の拡大版グローバルギャグルールによる打撃が次第に増しており、開発と保健、とりわけ女性の健康をめぐる政策でも、2人の指導者の考え方は相容れなかったように思う。

世銀の幹部はおそらく質問されたから答えたのだろうが、わざわざ「排除されたわけではない」と言われると、つつい「そうか、トランプショックもここまでできたか」と余分な憶測に走りたくもなる。

キム氏は韓国系米国人で、2012年7月1日に世銀総裁に就任し、2017年には再任を果たしている。米国のオバマ政権の意向が反映された人事だった。辞任の理由かどうかは別にしても、トランプ、キム両氏の衝突はいずれ避けられなかっただろう。

もともとキム氏はグローバルヘルス分野に深くかわる医学者であり、経済の専門家が多い世銀グループのトップとしては異色の経歴の持ち主だった。

世界保健機関（WHO）に在任していた2003年には、途上国のHIV陽性者に抗レトロウイルス薬を提供するための3by5計画（2005年末までに途上国のHIV陽性者300万人に治療へのアクセスを確保する計画）を立案し、計画推進にも中心的な役割を果たしてきた。

なぜ世銀のトップが保健の専門家なのか。キム氏は就任3週間後の2012年7月22日、米国の首都ワシントンで第19回国際エイズ会議（AIDS2012）の開会式

に出席し、「エイズの流行と貧困に終わりを」と題した演説を行っている。（演説の日本語仮訳はこちら）

[https://asajp.at.webry.info/201207/article\\_6.html](https://asajp.at.webry.info/201207/article_6.html)

世銀総裁が国際エイズ会議で演説するのは実はこの日が初めてだった。キム氏はエイズ対策の歴史を振り返り『転機のほぼすべてを切り開き、主導してきたのはアクティビストとコミュニティでした』と述べたうえでこう続けている。

『セーフセックスというコンセプトを考え出し、コンドーム使用や注射針交換など現在、使われているすべての行動変容に基づく予防対策を進めてきたのはアクティビストたちでした』

そして、アクティビストによる貢献を他にもいくつか挙げたうえで、その教訓を開発分野全般に生かしていくことの重要性を強調した。

『すべての開発分野における知識と経験の流れをよくし、すべての人が教育を受けられるようにし、母子保健を促進し、環境を持続可能なかたちでまもり、他の多くの目標にも生かしていくことができます』

こんな総裁がいただろうか。改めてそう思わざるを得ない。

『貧困対策の教訓とすべきエイズとの闘いの二つの特徴は、公開性と革新性です。エイズとの闘いで大きな成果をおさめた国は自国の流行を明らかにしてきました。情報を広く共有し、スティグマに挑み、公に議論することを奨励してきました。秘密主義を拒み、理屈に合わない恐怖の感情を払いのけてきました』

個人的な体験を控え目に交えつつ記せば、性にまつわる様々な思い込みをエイズの流行という世界史的な現象がもたらす現実に照らして修正していくプロセスもまた、公開性と革新性に満ちた作業だった。

後継総裁の選任は現在進められている。世銀のプレスリリースによると、候補者の公募を3月14日に締め切り、ワシントンで4月に開かれる春季会合までに決定したいということだ。キム氏の功績を引き継ぐ新たな指導者の選任を期待したい。

# BOOK GUIDE

## 今月のブックガイド

### 性のタブーに笑いで斬り込む

スウェーデンの女性漫画家によるフェミニズム・ギャグコミックである本書は、2014年にスウェーデンで出版された後、英語、フランス語、ドイツ語、オランダ語、デンマーク語、フィンランド語、スペイン語など多くの言語に翻訳され、国内外で大きな評判になった。日本では昨年12月に出版され、ツイッターなどで話題になり、2月には早速増刷されている。

女性器や生理、オーガズムなど女性の身体をめぐる様々なタブーについて、学術研究を引用しながら知られざる事実を次々に紹介してくれるのだが、ギャグコミックというだけあって、作者のユーモアが随所に散りばめられており、クスッと笑いながら勉強になる、といった不思議な読み心地。

全体は5章から構成されており、第1章「女性器に興味を持ちすぎた男たち」がいきなり面白くて、一気に本書の世界に引き込まれる。ここでは、章題のとおり女性器に興味を持ちすぎた男たちをランキング形式で紹介しているのだが、まず登場する第7位がコーンフレークを発明したジョン・ハーヴェイ・ケロッグ。ケロッグが医者であったというのは、そういえば聞いたことがあるかと思ったが、まさか女性のオナニーの禁止に情熱を燃やしていたとは知らなかった！ 彼は、オナニーが子宮ガン、てんかん、精神錯乱や様々な精神・身体障害の原因になると断言し、石炭酸をクリトリスに塗布することが治療法になると発見したのだという。クリトリスに酸……。第6位～1位までも驚きのエピソード満載である。

第2章「女性器のタブー」では、女性の外陰部がヴァギナ（膣）と混同されていることを指摘している。例えば、外陰部の美白クリームが「ヴァギナ美白クリーム」と名付けられているなど。初めのうち、作者が



### 禁断の果実 女性の身体と性のタブー

リーヴ・ストロームクヴィスト作  
／相川千尋訳  
花伝社  
定価 1800 円+税

何を言いたいのかピンとこなかったのだが、それはつまり外陰部に名称を与えない社会に私自身すっかり染まってしまうのだからとさせられた。

第3章は「女性のオーガズム」。啓蒙時代以前には、女性の身体と男性の身体は同一モデルにしたがって理解され、オーガズムも男女に共通のものみなされていたが、19世紀になるとその考えが一変される。女性の性欲はないものとされ、クリトリスでオーガズムを得る女性は未熟で、ペニスのヴァギナへの挿入でオーガズムを得なければならないとフロイトらが主張する。女性のオーガズムの中心はクリトリスであると証明されるのは1960年代の終わり頃になってから。クリトリスの根元までを含んだ実際の大きさ（7～10cm）が発見されるのは、なんと1998年！

第4章「イブたちの声——女性の身体と恥の感情」は、他の章とは雰囲気異なり、インターネット掲示板に寄せられた女性たちの書き込みを、イブの声として紹介している。生理ナプキンを買ってとお母さんに頼めなかったこと、子どもの頃バスで隣のおじいさんに腿に手を入れられたこと、自分の性器を見たことがないこと……。短いエピソードが並んでいるだけだが、女性というジェンダーについてしみじみ考えさせられる章だ。

最後の第5章は「生理のタブー」。私たちは生理を恥ずかしく、人に知られたくないものと考えているが、家父長制的宗教以前の時代には、生理は神聖なものにとらえられていたという。民間信仰では生理の血が媚薬になるとされたり、魔術的な力が備わる貴重なものとされていたとか。

とにかく初めて知る事実がいっぱいで面白く、フェミニズムの視点が痛快！ カバーの折り返しには「全世界38億人 女性たちの新必読文献！」と書かれているが、男性にもぜひ読んでもらいたい。

（日本性科学連合事務局長 今福貴子）



**4月3日(水) スタート 計8回**



## 第28回女のからだ相談員養成講座・基礎コース

**内容** ● 「もっと知りたい! <sup>わたし</sup>女のからだ」

- 第1回 4月3日(水曜日) 昼・夜 「オリエンテーション～ウィメンズセンター大阪とは～」
- 第2回 4月10日(水曜日) 昼・夜 「女のからだ基礎知識(1) 月経・性器・避妊・性感染症」
- 第3回 4月17日(水曜日) 昼・夜 「女のからだ基礎知識(2) 妊娠・出産・産後のからだと性」
- 第4回 4月24日(水曜日) 昼・夜 「女のからだ基礎知識(3) 更年期のからだと性」
- 第5回 5月8日(水曜日) 昼・夜 「女のからだ基礎知識(4) 女のからだに起きるトラブル」
- 第6回 5月11日(土曜日) 昼・夜合同 「女のからだ基礎知識(5) 女のからだに起きるトラブル」
- 第7回 5月15日(水曜日) 昼・夜 「女のからだ基礎知識(6) 女のからだに起きるトラブル」
- 第8回 5月22日(水曜日) 昼・夜 「女性の人生づくり～女の健康とは?～」

**会場** ウィメンズセンター大阪 講座室(大阪市阿倍野区旭町2-1-1-123)

**参加費・問い合わせ先等**

参加費: 20,000円(基礎コース計8回)

定員: 昼・夜それぞれ20名 昼: 午後2時30分～4時30分 夜: 午後6時30分～8時30分

問合せ先/ウィメンズセンター大阪(大阪市阿倍野区旭町2-1-1-123)

TEL 06-6632-7011 FAX: 06-6632-7012(月曜日～土曜日 10時～17時)

E-mail: wco@wco-ne.jp <http://wco.life.coocan.jp/>

## 2014年3月 WAS 諮問委員会で承認された改訂版「性の権利宣言」を増補

### 〈増補版〉『セクシュアル・ヘルスの推進 行動のための提言』

日本語版監修 松本清一・宮原 忍

◆B5判: 72頁、頒価 800円

**主な内容** セクシュアル・ヘルスの特徴/セクシュアル・ヘルス上の留意点と問題/セクシュアル・ヘルス増進のための行動と戦略/WASの「性の権利宣言(初版)/WASの「性の権利宣言」(改訂版)

※送料は別途。詳しくはJASE ウェブサイトで確認してください。



### 性教育ハンドブック Vol.6

## 『「ありのままのわたしを生きる」ために』

土肥いつき著

◆A5判: 86頁、頒価 500円



**主な内容** 港にて(自分史の試み…) / 船出のとき(小さなトゲのような思い…) / 帆をあげる(教員生活のはじまり…) / 舵を切る(「身体改造」の開始…) / 嵐の中で / かすかに見えた航路 / 新たな旅へ

**著者プロフィール** 1985年より京都府立高校教員。セクシュアルマイノリティ教職員ネットワーク副代表、トランスジェンダー生徒交流会世話人、まんまるの会(関西医科大学附属病院ジェンダークリニック受診者の会)世話人代表など。映画『coming out story』に出演。

### 既刊〈性教育ハンドブック〉

☆性教育ハンドブック Vol.5 『21世紀の課題=今こそ、エイズを考える』池上千寿子著 A5判・68頁 500円

☆性教育ハンドブック Vol.4 『性教育の歴史を尋ねる～戦前編～』茂木輝順著 A5判・92頁 500円

※送料は別途。詳しくはJASE ウェブサイトで確認してください。

◆JASE ウェブサイト <https://www.jase.faje.or.jp/pub/pub.html> からお申し込みいただけます。

または、Email [info\\_jase@faje.or.jp](mailto:info_jase@faje.or.jp) TEL 03-6801-9307 FAX 03-5800-0478

若者の性にかかわる行動、規範意識、情報源などが、この6年間でどのように変容したかがわかる。若者の性を理解するための必須の資料！

緊急出版!!  
全国調査による  
最新のデータ

# 青少年の性行動

わが国の中学生・高校生・大学生に関する第8回調査報告

編集／一般財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会（JASE）  
「第8回青少年の性行動全国調査」委員会

日本性教育協会では、1974年に第1回調査を開始し、以来ほぼ6年ごとに「青少年の性行動全国調査」を行ってきました。日本の青少年の性行動や性意識の変化を全国規模で把握することができる貴重な調査データとして国内はもとより国際的にも認知されています。

このたび、2017年6月から同年12月にかけて実施した「第8回青少年の性行動全国調査」の単純集計がまとまりましたので、一次報告として刊行しました。主要な結果「デート経験」「キス経験」「性交経験」などの解説と、全質問の中学生・高校生・大学生の男女別集計結果が掲載されています。

※なお、今回の調査に詳しい分析を加えた報告書「『若者の性』白書 第8回青少年の性行動全国調査報告（仮題）」につきましては、2019年刊行予定です。



A4判 80 ページ

頒価：1,000 円

送料は別途。詳しくは JASE ウェブサイトで確認してください。

**JASE ウェブサイトよりお申し込みいただけます！**

<https://www.jase.faje.or.jp/pub/seikoudou8.html>

※インターネット環境にない場合は、JASE(電話 03-6801-9307) までお問い合わせください。



●本書に関するお問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

一般財団法人 日本児童教育振興財団内 日本性教育協会（JASE）

〒112-0002 東京都文京区小石川 2-3-23 春日尚学ビル B1

TEL 03-6801-9307 FAX 03-5800-0478

Mail info\_jase@faje.or.jp URL <https://www.jase.faje.or.jp>

# JASE